

令和3年度岡山県農林水産総合センター水産研究所試験研究課題評価結果票

<事前評価>

総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番 号	R3-事前-1						
課題名	ICT技術を活用した海域環境の予測技術の開発						
課題の概要	本県のノリ養殖は、秋季の水温上昇による漁期の短縮、海域の栄養塩不足による品質低下によって、大きな被害を受けている。そこで、水温や栄養塩の予測技術の開発に取り組み、ノリ養殖の振興につなげる。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
	有効性	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
	効率性・妥当性	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
	総合評価	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ノリ養殖のみならず、海底耕耘などによる栄養塩類の変化をモニタリングする際にも利用できる可能性がある。 ・海水温の予測はともかく栄養塩の予測は極めて困難と思われるが、先験的な試みとして評価出来る。過去のデータも活用しながら長期的な課題として取り組まれることを期待する。 ・データを蓄積することで将来的な精度の向上や成果が見込まれる。過去のデータの活用や新しい情報の継続的な積み上げで、ノリ生産に関するより一層の貢献を期待したい。 ・水温予測モデルは、従来のモデルに比べて高い精度で予測可能となるよう開発されたい。また、研究の最終段階では水温・DIN濃度ともに、予測結果に基づく現場の対応指針を提案できれば良い。 ・温暖化が進み、色々な事で予測が難しくなっているので、漁業者のためにも研究を進めて欲しい。 ・栄養塩の予測研究は、ノリ生産者からすればノリの色落ちの目安を図る上で画期的な出来事になる。日々栄養塩の動向を気にしながら養殖を行うことは気苦労があるが、栄養塩の予測が出来れば生産者の不安を払拭できる。 ・栄養塩の予測期間は、生産者からすれば長い期間の方が、今後の予定を立て易い。 						

令和3年度岡山県農林水産総合センター水産研究所試験研究課題評価結果票

＜事後評価＞

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	R3-事後-1						
課題名	水産物の美味しさの見える化研究						
課題の概要	生産者や関係機関からは県産水産物の単価向上を図るため、美味しさをPRできるデータが必要とされる一方、消費者からは美味しさの特徴を明らかにすることが求められている。そこで、県産水産物の美味しさを科学的根拠に基づいて見える化し、消費拡大やブランド化の推進に寄与する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	3人	2人	1人	0人	0人	4.3
	有効性（効果）	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	有効性（目的以外の成果）	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
	効率性・妥当性（費用対効果）	1人	1人	4人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性（計画）	1人	1人	4人	0人	0人	3.5
	成果の活用・発展性	4人	1人	1人	0人	0人	4.5
	総合評価	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・色々なメディアによる商品、魚の啓蒙活動が望まれる。 ・得られた結果は事前に想定された範囲内と思われる。今後は、他機関の知恵やノウハウも借りながら販売拡大戦略に当結果を活かして欲しい。 ・水産物に関するおいしさの見える化は、消費拡大に有効だと考える。消費者への伝え方が課題と考えられるので、県の関係機関はもちろん、スーパーなど消費者に近い部分での一層の工夫をお願いしたい。 ・複数の査読付き学术论文など成果を積極的に公表した点や、成果が商品開発や普及に繋がった点が評価できる。 ・消費者の目にとまる情報発信を期待している。 ・この研究課題をこれからも続け、他の魚種の見える化も進めていただきたい。 ・消費者へのアピール方法、見える化を販売面にどの様に活かして行くかを確立することが今後の問題である。 						

番 号	R3-事後-2						
課題名	モクズガニ資源回復研究						
課題の概要	平成 26 年度から種苗生産及び放流を実施しているが、親ガニの分布や産卵生態、稚ガニ放流後の生残、成長など未解明部分が多い。このため、河口域における抱卵親ガニの生態調査を行い、親ガニを安定確保して種苗生産に寄与すると共に、放流後の稚ガニの追跡調査を行い、放流効果の把握と検証を行う。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	3 人	3 人	0 人	0 人	0 人	4. 5
	有効性（効果）	3 人	3 人	0 人	0 人	0 人	4. 5
	有効性（目的以外の成果）	3 人	3 人	0 人	0 人	0 人	4. 5
	効率性・妥当性（費用対効果）	3 人	3 人	0 人	0 人	0 人	4. 5
	効率性・妥当性（計画）	3 人	3 人	0 人	0 人	0 人	4. 5
	成果の活用・発展性	2 人	4 人	0 人	0 人	0 人	4. 3
	総合評価	3 人	3 人	0 人	0 人	0 人	4. 5
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・放流した個体は成長して河川を下るため、生き残った個体はほぼ全て回収できる可能性があり、栽培漁業対象種として良い。 ・事前の想定では放流種苗の再捕すら極めて困難と思われたが、新たな技術を駆使して放流効果の推定まで達成した。高く評価したい。今後は経済効果も試算して欲しい。 ・資源回復に向けた情報が得られたことは素晴らしい。さらなる種苗の安定供給や放流後の生育調査による漁獲の安定、交尾の方法などが確立できれば、岡山県独自の技術としての活用が期待できる。 ・複数の学術論文として公表可能な重要かつ優れた研究成果が得られており、高く評価できる。今後の成果公表と普及が期待される。 ・地道な研究に感動した。研究の様子を動画で見たい。 ・放流の成果が十分得られたと思う。今後、モクズガニの増加が生産者の所得にどの様に反映させていけるかが課題である。 						